

陸稲品種選定技術コースを終えて

当社は平成 18 年 7 月 27 日から 10 月 13 日まで実施された JICA 筑波の地域別研修「陸稲品種選定技術」英語圏アフリカコースを受託し、研修指導業務を行いました。この研修コースは、アフリカにおけるネリカ普及支援を念頭に置いたものです。ネリカはアフリカ稲センター（WARDA）で育成されたアフリカ稲とアジア稲の種間雑種品種群で、もともと西アフリカの天水畑陸稲作の改善をめざして開発されました。アフリカ稲由来の耐乾性や雑草抵抗性などのアフリカの環境に適した形質とアジア稲由来の高収量性とを併せ持つとされていることから、農家に普及されればアフリカの農業の発展に大きなインパクトを与えられるものと大変注目されており、現在、西アフリカに限らず、アフリカ各国でいくつかの品種についての普及への取り組みが始められている段階です。この研修コースでは特に品種普及の基礎となる品種選定技術を重視し、各国において、ネリカ品種を含む陸稲の優良品種選定に貢献できる人材を育成することを旨としました。研修カリキュラムは、多くの優良陸稲品種を育成・普及させてきた日本の陸稲品種選定技術に焦点を絞りつつ、各国で応用可能な技術が習得できるように配慮しました。

研修場所となった JICA 筑波がある茨城県は日本の陸稲作付面積の約 7 割が集中する日本の陸稲生産の中心地です。JICA 筑波の近隣の地域も以前は、陸稲栽培が盛んな地域であったということで、今年も小規模ながらも陸稲を作る農家圃場をいくつか見ることができ、陸稲の研修には適した環境だったと思います。また、茨城県農業総合センターは長年、陸稲育種の指定試験地として日本の陸稲育種を担ってきた機関です。残念ながら昨今の陸稲栽培面積の減少を理由に、今年の 3 月で陸稲育種事業は終了してしまいましたが、陸稲の奨励品種選定試験などいくつかの課題は引き続き行われています。陸稲の試験を実施している研究室と圃場は水戸市にあり、JICA 筑波からバスで 1 時間の距離であるため、研修期間中に合計 3 回の見学を行い現場の空気に触れながら、陸稲に携わってきた研究員の方々から陸稲品種選定の理論と実際を学ぶことができました。

この他にも国の研究所や大学の協力を得て、3 ヶ月弱の間に 41 単位*の講義、51 単位の実習、10 単位の見学を行いました。研修の核となったのは、JICA 筑波の圃場で行った品種選定試験実習でした。短い期間の研修でしたので、予め準備した試験圃場を用い、出穂期以降の調査に焦点を絞っての実習となりました。10 人の研修員それぞれが 3 品種 3 反復の合計 9 試験区を担当し、出穂、形態そして、収量の各調査を行いました。同じ作業を繰り返し行うことにより、技術の習得が確実にありますし、また、異なる品種を実際に目で見、手で触りながら調査することにより、品種の特徴がどのようなところに現れるかを体得することができたと考えます。研修員にとっては、来日早々から出穂調査に取り組み始め、結果報告会の 1 週間前に収量調査が終わるといった厳しいスケジュールでしたが、真摯に取り組み成果を挙げてくれました。

今回参加した 10 人の本国でも、ネリカの普及事業は重視されているとのこと。研修員の帰国後の活躍が期待されますし、われわれも、何らかの形で彼らの現場での活動を支援していきたいと考えています。

(2006 年 11 月、小島)



生物工学研究所普通作育種研究室
(水戸市) での収量調査実習



品種選定試験圃場からのサンプリング
(JICA 筑波場内圃場)



担当する品種の収量調査に取り組む
研修員たち (JICA 筑波実習棟)

*1 単位は半日 (2.5 時間)